

2021年度（令和3年度）山のトイレを考える会 活動報告

1. フォーラム案内、ニュースレターを送付（2021年1月27日）

第22回山のトイレフォーラム案内とNO. 22ニュースレターを会員及び関連団体へ約280通送付しました。

2. 令和3年度定期総会の開催（2021年3月13日）

第22回フォーラム開催日に定期総会を開催しました。令和2年度事業報告、会計報告、令和3年度事業計画案、予算案について承認を受けました。

3. 第22回山のトイレフォーラム（20周年記念）を開催（2021年3月13日）

第22回山のトイレフォーラムを札幌エルプラザ・環境研修室1・2で55名の参加者を迎えて開催しました。テーマは「大雪山の山のトイレを考える」です。

（1）講演 岡崎哲三氏（同）北海道山岳整備代表（一社）大雪山・山守隊代表

テーマ「山岳管理における民間団体のかかわり方

～アイデアや実行力を行政と協働する～」

（2）発表 仲俣善雄 山のトイレを考える会事務局長

テーマ「大雪山の避難小屋トイレについて考える」

（3）総合討論 コーディネーター 伊吹省道 山のトイレを考える会副代表

フォーラムの内容は当会ホームページに（1）（2）はYouTubeで配信しています。また、資料集も全て掲載しています。

※交流会はコロナ感染防止から中止としました。

4. 美瑛富士トイレ管理連絡会による点検パトロールの実施（2021年6月27日～10月3日）

2015年に開始した美瑛富士避難小屋へのテント型携帯トイレブースの試行的設置は5年間実施され連絡会で維持管理の点検パトロールを実施、5年目の2019年9月に環境省が固定式携帯トイレブースを設置しました。

今年は固定ブースが設置された2年目の点検パトロールでした。「美瑛富士トイレ管理連絡会」による点検パトロールは下記のとおり全部で6回実施することができました。

・6月27日（日）…携帯トイレブースの冬囲い外し（美瑛町・環境省・山のトイレを考える会）：7名

① 7月11日（日）…大雪山国立公園パークボランティア連絡会：8名

② 7月18日（日）…札幌山岳連盟：6名

③ 7月25日（日）…日本山岳会北海道支部：5名

④ 8月1日（日）…北海道山岳連盟：5名

⑤ 8月7日（日）…山のトイレを考える会：5名

・8月29日（日）…道央地区勤労者山岳連盟（コロナのため中止）

・9月12日（日）…道北地区勤労者山岳連盟（コロナのため中止）

⑥ 9月27日（月）…北海道山岳ガイド協会：2名

・10月3日（日）…携帯トイレブースの冬囲い（美瑛町・環境省・山のトイレを考える会）：6名

延べ参加者数：44名

5. 銀泉台登山口に携帯トイレ回収ボックスを寄贈（2021年6月27日）

大雪山国立公園の主要登山口は19箇所。そのうち12箇所に携帯トイレ回収ボックスが設置されていました。今年、当会で木製の回収ボックスを制作、上川町に寄贈しました。大雪山国立公園では初めての木製の回収ボックスは銀泉台登山口に設置しました。

6月27日（土）に当会の運営委員4人で銀泉台登山口まで運搬、登山口に設置しました。これで13箇所となり、シーズン中は138個の使用済み携帯トイレを回収することができました。

6. 裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置に向けたアンケート調査の実施

（2021年7月11日～8月29日）

裏旭野営指定地にはトイレがありません。2020年の7月中旬、当会事務局運営委員4名で野営地に一泊して現地調査を実施しました。

水も豊富で景観も素晴らしい野営地ですが、身を隠す場所が殆どありません。登山者が携帯トイレを持ってくる、どこで使うのか困惑する野営指定地です。

残念ながら一度の調査では聞き取り調査の件数（12件）も少なく、皆さんどこで排泄しているのか掘り下げた調査はできませんでした。

そのため今年は北海道の山岳団体、自然保護団体、山岳事業者、ガイド、研究者等の賛同を得て「裏旭野営指定地携帯トイレ検討連絡会」を設立、分担してアンケート調査を実施しました。

アンケート調査は7団体で9回実施。回収数は宿泊者72枚、通過者95枚（有効回答84枚）でした。報告書は2022年2月末までに作成し、公表する予定です。

（アンケート調査賛同団体）8団体（※旭川勤労者山岳会はコロナ緊急事態宣言で中止）

- ① 7月11日（日）：日本山岳会北海道支部（4名）
- ② 7月11日（日）～12日（月）：山のトイレを考える会（2名）
- ③ 7月17日（土）～18日（日）：北海道山岳連盟（2名）
- ④ 7月22日（木）～23日（金）：NPO大雪山自然学校（2名）
- ⑤ 7月24日（土）～25日（日）：道央地区勤労者山岳連盟（12名）
- ⑥ 7月31日（土）～8月1日（日）：山のトイレを考える会（4名）
- ⑦ 8月7日（土）：札幌山岳連盟（2名）
- ⑧ 8月21日（土）～22日（日）：北海道山岳連盟（2名）
- ⑨ 8月28日（土）～29日（日）：大雪と石狩の自然を守る会（7名）

（その他の賛同団体）9団体

旭川山岳会・大雪山倶楽部・大雪山山守隊・NPOかむい・北海道大学（愛甲研究室）・北海道山岳ガイド協会・HAT北海道・山楽舎BEAR・大雪山国立公園パークボランティア連絡会

7. 山のトイレマップ9,000部配布（2021年7月～10月）

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」が2018年7月10日に発表されました。当会では、少しでも宣言に寄与できるよう、山のトイレ、携帯トイレブース、携帯トイレ回収ボックスの位置、登山口近くの販売店が載る山のトイレマップを作成し、各所に配備と配布をお願いしました。今回で3年目です。

配備先は宿泊施設、ビジターセンター、森林管理署、ロープウェイ会社等の協力をいただき、大雪山国立公園の15ヵ所で8,000部、知床、利尻山、羊蹄山の5ヵ所で1,000部、全部で9,000部配布しました。

8. 旭岳ビジターセンターのフォーラムで講演（2021年10月2日～3日）

東川主催の「大雪山を快適で楽しく利用するためのフォーラム」が旭岳ビジターセンターで開催されました。1日目は事務局長の仲俣が「大雪山のトイレ事情」について、2日目は登山ガイドの鳥羽晃一氏が「登山者と野生動植物との付き合い方」で講演しました。また、2日間とも参加者に携帯トイレの使用方法について体験していただきました。

9. 北海道アウトドアフォーラム2021で展示（2021年12月1日～2日）

今年で7回目の北海道アウトドアフォーラム（主催：国立日高青少年自然の家・北海道アウトドアフォーラム専門委員会）に当会が初めて参加、「大雪山国立公園の山のトイレ問題」について展示しました。フォーラムの参加者は118名（事務局を含めると130名）でした。

展示では山のトイレマップと山のトイレマナーガイドも配布。また当会の団体会員でもある（株）総合サービス様は隣のブースでテント型ブースと便座を展示、携帯トイレも無償配布しました。展示に訪れた人は携帯トイレを使ったことのない人が殆どでした。

来年度に日高山脈襟裳国定公園が国立公園化される予定です。大雪山国立公園の山のトイレ問題の取り組み経緯を写真で展示紹介することで、し尿汚染の実態を知り、山のトイレマナーに感心を持っていただけたと思います。

10. 北海道や環境省等主催の会議に出席

コロナ禍の中、北海道十勝総合振興局が事務局の「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」、環境省が事務局の「表大雪地域登山道維持管理部会」、「東大雪地域登山道維持管理部会」、「大雪山国立公園管理協力金等検討作業部会」等、多数の会議にリモートで参加しました。

会議では山のトイレの現状や当会の活動を報告し協力をお願いしました。

特に第3回の表大雪地域登山道維持管理部会（2021.12.10）では、裏旭野営指定地のトイレ問題等を解決していくため「大雪山のトイレ問題検討の小委員会設置」の提案をし、部会で前向きに検討することになりました。

（以 上）